



TITLE:

# 男子の性的神経症に対する Chlorpromazine(Wintermin)療法

AUTHOR(S):

後藤, 薫; 酒徳, 治三郎

---

CITATION:

後藤, 薫 ...[et al]. 男子の性的神経症に対する  
Chlorpromazine(Wintermin)療法. 泌尿器科紀要 1957, 3(8): 525-529

ISSUE DATE:

1957-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111489>

RIGHT:

# 男子の性的神経症に対する Chlorpromazine (Wintermin) 療法

京都大学医学部泌尿器科教室 (主任 稲田 務教授)

助教授 後 藤 薫

助手 酒 徳 治 三 郎

## The Effect of Chlorpromazine (Wintermin) on Male Sexual Neurosis

Kaoru GOTO and Jisaburo SAKATOKU

*From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University*

*(Director : Prof. T. Inada)*

Chlorpromazine (Wintermin) was administered orally on eleven patients with psychoneurotic sexual disturbance. Of these patients, 2 cases were improved, 3 cases effective, but others derived no benefit from this treatment.

For these patients, who treated with Wintermin, it is desirable that simultaneous psychiatric or urological supplemental treatment be performed.

### 緒 言

正常な男子生殖機能は泌尿生殖器系は勿論、内分泌系および精神神経系が共に完全な場合に充分発現される。近時種々の疾患においてその心因的方面に対する研究が重要視されつつある。われわれは最近まで比較的等簡視されて来た男子生殖器の精神神経的機能障害特に性的神経症に対して検討を加えるとともに、それら疾患群に対する一治療法として Chlorpromazine を使用して興味ある成績を得たので報告する。

### 薬 剤

Chlorpromazine は1950年12月に Rhône-Poulenc Specia の M. P. Charpentier によつて Phenothiazine 系抗ヒスタミン剤の一連の研究の結果合成されたもので、1951年以来初めは主にフランスにおいて、次いで他の欧米各国においてその薬理作用が研究され、特に精神病の治療に卓効がある事が明らかとなり広く精神科医の注目をひくに至つたものである。また本剤は制吐剤として、または麻酔剤の Potentialisateur として各科領域で利用せられており、我々も既

に泌尿器科手術時の利用について述べた所である。

Chlorpromazine としては塩野義製薬株式会社の Wintermin を使用した。即ちその化学的組成は 3-chlor-10-(3' dimethylaminopropyl) phenothiazine の塩酸塩であつて、白色、殆んど無臭の粉末であつて、水、エタノール、メタノール及びクロロホルムに溶け易く、エーテル、ベンゾールには溶けにくい。

Chlorpromazine は Phenothiazine 系の他の抗ヒスタミン剤に比較して可成り異つた薬理作用をもっている。抗ヒスタミン作用が極めて弱いが自律神経末梢に極めて強い交感神経遮断作用をもっている。それと同時に極めて卓越した中枢神経に対する抑制作用を示す。即ち Laborit の云う R. O. P. A. (Reaction oscillante post aggressive) を抑制する効果が期待出来ると云われ、従つて神経症の疾患に対して有効と考えられる。故に我々は種々の神経症的な症状を呈する男子生殖機能障害の2、3のものに対して臨床的に応用したので、その概要についてのべる。

### 臨 床 症 例

我々の外来を訪れた11例の症例に使用した。以下各々の症例についてのべる。

症例 1. ○井○一○, 28才, 教員.

主訴: 射精時の疼痛.

診断: 性的神経症.

受診約 4ヶ月前より下肢に倦怠感があり, 不眠を来す様になり, 根気がなくなり, 種々のビタミン剤等を使用していたが治癒しない. 結婚後 1年半であり, 性病の既往はないが約 1ヶ月前より射精時に軽い痙攣性の疼痛を感じ, 悪性の疾患に罹患したのではないかと心配して 2, 3の医師に診察を求めたが異常はないとの事であつた. 患者の訴えによると不潔な性交の経験はないが, 中学 3年の頃より手淫をはじめ, この際手指が不潔なために何らかの疾患に感染したと考えられると主張する. その他に既往に重要な疾患を知らない.

初診時体格中等, 栄養は良好であるが, やや貧血を見る. 腹部には異常所見なく, 外性器にも視, 触診上では異常をみとめない. 検尿ならびに精液検査にては全く病的所見をみない. そこで尿道レ線撮影, 後部尿道鏡検査および精囊精管レ線撮影を行つたが, 精囊は正常に比べてやや小葉の数が多い他には精阜, 射精管, 精管等は全く正常であつた.

ここにて患者に上記の臨床所見を充分説明し, 無意味な危惧にすぎないことを説得するとともに, Wintermin 1日 75mg を 8日間投与した所症状は軽快した.

症例 2. 石○明○, 20才, 予備校学生.

主訴: 自信缺如, 記憶障碍.

診断: 性的神経症.

14才の時より手淫を経験し, その頻度は次第に増加して自制する事が出来ず, 一日数回に及ぶ事があり, 患者自身その不潔感・罪悪感で日夜苦しみ, 将来は廃人になるのではなからうかと不安で日夜悩んでいた. 学業も手がつかなくなつたが成績は中の上位であると言う. 高校 3年になり, 進学のために受験勉強に迫られる様になつてますます上記の観念にとらわれ, 注意集中困難, 記憶力不良となつて頭重を来す様になり, 某大学を受験したが失敗し, その頃から両親に見はなされた様に感じ, 友人に対して劣等感をいだく様になつた. 再度受験を試みるために予備校に入学したが, 手淫によつて肉体的・精神的な破滅を来して社会人としての生活が不能になるのではなからうかと, 我々の外来を訪れた.

初診時体格中等, 栄養中等であり, 腹部, 外陰部には何等病変をみとめない. そこで説得療法と共に Wintermin を 1日 50~75 mg を 36日間投与した所,

種々の神経症状は軽快して, ほぼ勉学に専念出来る様になつた. 当時手淫の回数は 1週 2~3回であつた. 約 3ヶ月経過した所, 患者は再び全身倦怠感, 頭重に加えて視力障碍を訴えて来院し, これ等の神経症状は尚手淫に密接な関係があると主張した. そこで本院眼科外来の受診を求めた所, 裸眼視力左 0.3, 右 0.2で眼鏡の処方を受けた. そこでこの眼鏡を着用させると共に再び患者の訴える神経症状に対して説明を行つて更に Wintermin 1日 75~100mg を 61日間投与した所, 種々の症状は軽快して種々の不安は軽減した.

症例 3. 山○秀○, 26才, 国鉄職員.

主訴および診断: 陰萎.

家族歴として実兄が神経衰弱にて治療中であるが, 重篤な既往症はない.

来院の約 5ヶ月前まで時々遺精をみとめていたが, その後は遺精もなく, また勃起力も全く失つたと云う. 2ヶ月前に結婚したが性交は全く不能であると云う. 来院までに男性ホルモンの注射を受けた事もあるが無効であつた.

初診時は体格やや小, 栄養佳良であつて腹部および外陰部には視, 触診にて異常を見ない. 顔貌は表情に乏しく, 問診に際しては軽度の考慮障碍があり, 意志の疎通性が減退しており, 人格分裂素質の様な感があるが, 作為体験, 刺激性感情, 妄想, 幻覚, 思考減退, 拒絶症等の症状は見られない.

後部尿道鏡検査, 前立腺・精囊分泌物検査, 膀胱鏡検査, 精囊精管レ線撮影, 睪丸バイオペシー等を行つても特に器質的病変を見出し得ず, 上記の精神症状からして, 精神因性の陰萎と考えてテストステロン プロビオネート 1日 10~20 mg および Wintermin 1日 50~150mg を 3ヶ月にわたつて投与したが, すべての症状は固定性で全く不変で現在にいたつてゐる.

症例 4. 三○宗○郎, 42才, 会社員.

主訴および診断: 早漏.

結婚生活約 20年で既に 4児を有しており, 性生活に特に変調をみた事はなかつた. 約 7ヶ月前より避妊の目的のために中絶性交を行つていたが, 約 1ヶ月前より陰茎挿入後約 1分にて射精を見る様になり, 快感も減退した. 又射精後に会陰部に重圧感があるが精液は肉眼的に著変はないと云う.

初診時体格中等, 栄養佳良, 外診上生殖器には何ら異常をみとめない. そこで中絶性交が本症の成因に関係していると考えられるため, 一応精管結紮術をすすめたが患者が拒否したため, 性交時にはコンドームを着用させ, かつ Wintermin を夕食後 50mg 内

服をすすめた所、勃起の持続時間はやや延長したと云う。

症例 5. 内○清○, 25才, 会社員。

主訴: 不眠。

診断: 性的神経症。

約2年前に急性膀胱炎に罹患した他は現在まで健康である。尚独身であるが、平均週に1回程度の手淫を行っている。手淫は就寝前に行うのを常としていたが、約1ヶ月前より、手淫後、就寝前に口腔、鼻腔および眼瞼の粘膜が乾燥する様に感じ、これが気になって不眠におちいつた。又精液の臭気が身体からはなれない様な気がして、手淫を行つた翌朝などは、家人や友人にその臭気を気づかれなかつたかと不安になつた。

初診時体格はほぼ正常、栄養良好で、外診上異常所見は全くない。そこで患者の不安を全く無意味である旨を説得させて Wintermin 1日量 50mg を7日間使用したが、患者の訴えは不変であり、やがて治療せぬままに来院しなくなつた。

症例 6. 網○元○, 24才, 公務員。

主訴: 全身倦怠感。

診断: 性的神経症および包茎。

16才の時から手淫を覚えたが、その後顔面に高度の尋常性痤瘡を発生したが、これは手淫によつて発症したものと信じていた。元来無口な性格であつたがその頃より友人との附合をいやがる様になつた。手淫の回数は1週に2~3回であつたが、手淫のため性器の発育が悪く、正常よりも小さいために公衆浴場へ入浴に行くのは不安で、友人に劣等感をいだいている。仕事に対しては能率が悪く記憶力が減退しており、そのために上司には不能力者と見なされていると訴え、また身体的には全身倦怠感が強く、時に不眠となる。異性に接した事はない。

初診時、体格中等、栄養良好である。腹部には異常所見はない。外性器は、包茎がある他は異常はない。

そこで包皮の環状切除術を行つて、説得療法を試みたが、後術約1ヶ月にいたつても尚同様の訴えが消失しないので Wintermin 1日 75~100mg 内服を行つたが、41日間使用した所、気分も爽快となり、仕事にも自信が出来たと報告があり、初診後1年余にて幸福な結婚生活に入つた。

症例 7. 沢○利○, 23才, 商業。

主訴: 性器発育不全。

診断: 性的神経症。

約2年前より鬱勃たる性欲を感じる様になつて、僅かな刺激によつても容易に勃起を来す様になり、此の頃より自己の性器に注意をむけていたが、友人等の性

器に比べると小さいと訴える。手淫および異性との接触に際しての性感その他には異常はないが、正常より小さなために相手に充分な満足を与えられないのではないかと心配になり、更に相手にそれを指摘されたり誹謗される様になるのではないかと不安になり、婦人の顔を直視出来なくなつたと云う。

初診時は体格中等、栄養良好。腹部には変化なく、陰茎も発育は良好であつた。その他の外陰部にも全く異常所見はない。

色々と説明を行つて説得に努めたが、患者は諒解せぬので Wintermin 50 mg を12日間使用して更に指導を試みたが、訴えは不変で、他医に転じた模様である。

症例 8. 木○一○, 20才, 無職。

主訴: 下腹部および外陰部の灼熱感。

診断: 性的神経症。

約2年前より、射精後に下腹部および外陰部に灼熱感があり、そのためか不眠におちいる。灼熱感は翌朝まで残る事があり、気分が勝れぬと云う。射精時の疼痛、血精液症等はないと云う。

初診時体格中等、栄養は良好で、腹部には筋防禦、発赤等を見ず、両腎は触知されず膀胱部にも著変をみとめない。陰茎は正常大であるが偽包茎の状態である。外尿道口は正常。両側陰囊内容は正常であるが両側の副睾丸頭部に軽度の圧痛を証明する。肛門内診にて前立腺は異常がない。

そこで Wintermin 75 mg を経口的に8日間投与したが、症状は軽快しなかつた。

症例 9. 舟○宗○郎, 32才, 公務員。

主訴: 交接障碍。

診断: 早漏。

既往症として11才の時に小児麻痺に罹患したが、現在では日常の生活に不自由はない。

思春期以後になつても他に比べて陰茎の発育が悪い様に思う。しかし8年前に結婚し、性交は平均1週間に2回であつて、性感、勃起力等には異常はなかつた。現在までに2児を得ている。しかし最近1ヶ月来、早漏の傾向があつて陰茎挿入直後に射精を来し、直ちに勃起も消失してしまう。

初診時は体格中等、栄養良好で、右腎は下極を触知し左腎を触れない。膀胱部には異常なく、陰茎はやや小さいが、包皮を被らず、外尿道口も正常である。両側陰囊内容にも著変を見ず、前立腺も触診上では正常である。Wintermin 50 mg を夕刻に内服させて12日間経過を観察していたが、症状は不変のまま治療を中止した。

症例10. 島○善○, 29才, バス運転手.

主訴および診断: 早漏.

4ヶ月前に結婚したが, 性交に際して, 射精が陰茎挿入後約1分で発現すると云う. 勃起力は正常で他に訴えはない. 只勤務が時間的に不規則で疲労を感ずると云う.

初診時は体格中等, 栄養佳良. 腹部および外陰部には全く異常をみとめないため Wintermin を50mg 夕刻に内服させ, 8日間観察したが効果は見られなかった.

症例11, 広○幸○, 19才, 仕立業.

主訴: 外陰部の不快感.

診断: 性的神経症.

既往症として特記すべきものはない. 仕立屋に2人の同僚と住込みで勤務しているが, 他の同僚よりも仕事が遅く, 屢々主人に注意を受けるのを気にしていた. 約1ヶ月前より頭重感および陰囊を中心として外陰部全体に圧迫感に似た不快感を来す様になつて, まずまず仕事がかどらぬ様になつた. 外陰部の不快感は手淫によつて強くなると云う. しかも手淫を自制する事は出来ず, 生殖器がそのために損傷されている様に思うと訴えた.

初診時は体格はやや小さく, 肥満性であるが, 腹部および外陰部には全く病的所見をみとめない. 尿および精液は異常所見はない. WaR 陰性.

そこで説得療法を行うと共に Wintermin を75mg を18日間使用した所, 症状は軽快したが, 尚 75mg ~100mg を24日間服用して全治し, 不安も除かれて正常の仕事に邁む事が出来る様になつた.

### 総括ならびに考按

Wintermin として広く使用せられている Chlorpromazine は1950年12月に M. P. Charpentier によつて Phenothiazine 系抗ヒスタミン剤の研究中に新しく作られた化合物であつて, 最初は 4560 R. P. と呼ばれ, その神経系に対する特異な作用により注目をあつめている.

即ち薬理学的には中枢神経に対しては鎮静, 鎮痙, 制吐, 体温低下, 条件反射阻止等の諸作用が知られているが, 又或種の精神疾患の原因とも考えられる大脳皮質-間脳, ないし間脳-下垂体機構を休止せしめたり, 遮断する作用をもつており, Lassner は薬理学的前頭葉切除

術 pharmacologische Lobotomie と呼んでいる. この様な作用を応用して精神科領域では各種分裂症, 躁病等に使用して卓越した成績を得ている.

神経症に対しては, その成績が一律ではなく, Chlorpromazine は絶対的の治療薬とは考えられないが, Lehmann, Winkelmann 等によると強い情緒緊張, 不安, 苦悶, 強迫症状等を有する神経症に対してはその持続性の内的緊張の緩和に有効であると述べられている. また本剤による傾眠傾向や精神活動の鈍化も神経症の場合に見られる焦躁, 易刺激性等に利するものと考えられる. しかし神経症に対しては同時に精神療法的な手技や合併症に対する治療が重要な役割を演ずると桜井はのべている.

我々の症例の内, 性的神経症と診断した7例については有効2例, 軽快2例, 無効3例と云う成績を得た. しかし無効の3例については Wintermin 投与期間は7日~12日の短期間にすぎず, これをもつてその効果を決定するのは危険である. 一方有効または軽快の4例に対しては最長97日間の投与を行つており, 補助併用療法としては視力障害を訴える者にはその矯正を, また包茎を有する者に対しては包皮切除術を行つたが, それと共に充分の説得療法を行つたものである. これらの患者に対して試みた尿道鏡検査, 精囊レ線撮影法等の複雑な泌尿器科的検査法がものものしい感じを与え, これが暗示的な影響を及ぼしたと考えられる事も見逃せない.

Wintermin は鎮静作用に加えて平滑筋に対しては抗痙攣的作用を有しているために, 我々は本剤を3例の早漏を訴える患者に使用した. しかしコンドームを使用した1例のみに射精までの時間延長をみたのみであつた. ただ本症の患者が通院を短期間のみで中止し, 以後の経過を観察出来なかつた点は遺憾である.

陰萎については Winkelmann は4例中全例に効果があつたと云い, 松岡は性的に全く無関心であつた者が性欲の異常亢進を示した男女各2例についてのべている. 我々は陰萎の1例について Wintermin をテストステロンと併用

して3ヶ月間にわたって投与したが全く症状の改善はみとめられなかつた。

薬剤の副作用としては低血圧, 心悸亢進, 口渴, 肝障害等があげられているが, 我々の症例では投与を中止せねばならぬ重篤な副作用は全く見られなかつた。

Wintermin は普通精神科領域では1回25~50mg 1日3~4回の筋注より治療を開始し, 次いで漸増的に症状が改善されるまで1日100~200mg の割合で増量し, 多くの場合300~400mg を20~30日間持続する。しかし一般

に神経症に対しては更に少量でよいとされており Lehmann は1日量は100~200mg で充分であつて, これ以上を使用しても無駄であると云う。我々は神経症に対しては75~100mg を使用して可成りの効果を得ている。投与方法はすべて外来患者であるため経口的に行い, 1日2~3回錠剤の形で分服させた。

以上によつて補助療法を適切に行いつつ Wintermin を使用すれば男子の性的神経症は症状が可成り改善せられるものと考えられる。

症 例	年 令	職 業	主 訴	診 断	Wintermin 使用法	補 助 療 法	効 果
1 〇井	28	教 員	射精時の疼痛	性的神経症	75mg×8日	説 得	軽 快
2 石〇	20	予備校生	自信缺如, 記憶 障害, 視力障害	性的神経症(近視)	50~75mg×36日 75~100mg×61日	説得, 近視の矯正	軽 快
3 山〇	26	国鉄職員	陰 萎	陰萎(人格分裂素質)	50~150mg×3月	テストステロン プロビオネート 10~20mg×3月	無 効
4 三〇	42	会社員	早 漏	早 漏	50mg×11日	コンドーム使用に よる避妊	軽 快
5 内〇	25	会社員	不 眠	性的神経症	50mg×7日	説 得	無 効
6 網〇	24	公務員	全身倦怠感	性的神経症(包茎)	75~100mg×41日	説得, 包皮切除術	有 効
7 沢〇	23	商 業	性器發育不全	性的神経症	50mg×12日	説 得	無 効
8 木〇	20	無 職	下腹部, 外陰部 の灼熱感	性的神経症	75mg×8日	説 得	無 効
9 舟〇	32	公務員	交 接 障 碍	早 漏	50mg×12日	説 得	無 効
10 島〇	29	バス運転 手	早 漏	早 漏	50mg×8日	説 得	無 効
11 広〇	19	仕立工	外陰部の不快感	性的神経症	75mg×18日 75~100mg×24日	説 得	有 効

## 結 語

男子の性的神経症およびその類症に対して, Wintermin 投与を行つた所, 11例中有効2例, 軽快3例, 無効6例の成績を得た。症例をえらんで適切な補助療法を併用すれば本症の治療に対する Wintermin の効果は充分期待出来ると考えられる。

撰筆するにあたり, 終始御懇篤な御指導ならびに御校閲をたまわつた恩師稲田教授に深謝する。

本論文の要旨は昭和32年7月6日, 第190回京都泌尿器科集談会の席上で発表した。

## 文 献

- 1) 稲田他: 強化麻酔の泌尿器科手術に対する応用 ウインタミン文献集, 昭31.
- 2) Laborit, H. et Huguenard, P.: Pratique de L'hibernothérapie (内園日本語訳), 1954.
- 3) 松岡: 最近医学, 11, 2, 昭31.
- 4) 桜井, 矢野, 久保: コントミン文献集, 昭30.
- 5) Winkelman, N. W., J. A. M. A., 155: 18, 1954.